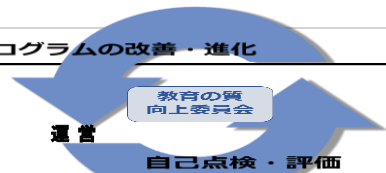


プログラム名称	データヘルスサイエンス入門プログラム	
プログラムの目標	1. 人々の健康課題の解決に、データ・AIを活用する思考を身につけ、関心をもつ。 2. 健康に関するデータの特徴を読み解き、分析し、他者に説明できるスキルを身に付ける。 3. データ・AIを活用する際に求められる倫理やセキュリティについて理解する。	
組織体制	プログラムの運営 プログラムを改善・進化させるための体制 プログラムの自己点検・評価を行う体制	教育の質向上委員会 

数理・データサイエンス・AI教育プログラム(データヘルスサイエンス入門プログラム)とモデルカリキュラム対応表

本学科目				数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム・モデルカリキュラム(リテラシーレベル)														
科目名	対象学科・開講学年	履修区分・単位数	※=プログラム修了要件科目	導入						基礎			心得		選択			
				社会におけるデータ・AI利活用						データリテラシー			データ・AI利活用における留意事項		オプション			
				1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-6	4-7	4-8
データヘルスサイエンス入門	看護・1	必修・1	※	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●		
コンピュータリテラシー	看護・1	選択・1																
データリテラシー基礎	看護・1	必修・1	※		●					●	●	●						
疫学 I	看護・1	必修・1	※							●			●	●				
データリテラシー演習	看護・2	選択・1								○	○	○					○	○

内容
 ・数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであること(上記1-1、1-6)
 ・数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること(上記1-2、1-3)
 ・様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること(上記1-4、1-5)

内容
 ・実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関すること(上記の2-1、2-2、2-3)

内容
 ・数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用にあたっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮することが重要であること(上記の3-1、3-2)

